

多摩市ニュータウン再生推進会議

(令和元年度 第1回)

令和元年8月27日

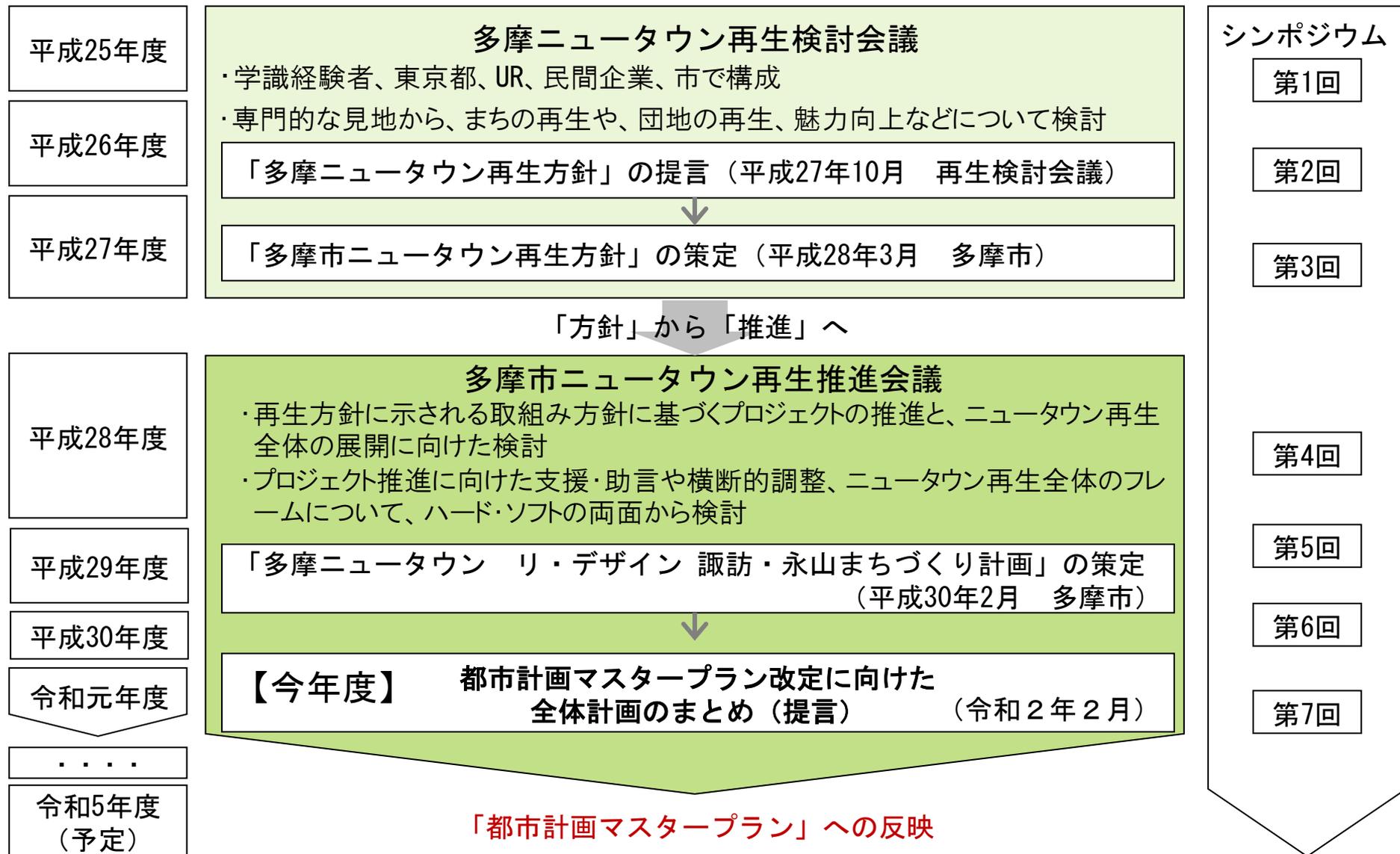
議事

1. これまでの経緯と今年度の進め方
2. 全体計画のまとめ(提言)に向けた検討
3. 地区別まちづくり方針の検討
4. リーディングプロジェクトについて
5. シンポジウムについて

1. これまでの経緯と今年度の進め方

1. これまでの経緯と今後の進め方

1-1. これまでの経緯



1-2. 今後の進め方

- 2ターム目2年目の再生推進会議を開催
- 今年度は全体計画のまとめ及び提言を見据え、下記3点を検討テーマとする

<検討テーマ>

- ① 将来都市構造の具体化をめざす全体計画イメージの精査
- ② 都市計画マスタープラン改定に向けた重点テーマの検討
- ③ 諏訪・永山地区のノウハウを活かした地区別まちづくり方針の検討

今年度の検討スケジュール

	令和元年第1回 (2019.8.27)	令和元年第2回 (2019.11)	シンポジウム (2020.2.11)	令和2年第3回 (2020.2)	
内容	○全体計画の構成案	○全体計画(案) ○重点テーマ整理	○全体計画まとめ(案)の報告	○全体計画のまとめ(提言)	○2ターム目総括、及び次年度の進め方
	○地区別まちづくり方針の対象地区概要	○地区別まちづくり方針(案)	○地区別まちづくり方針の報告	○地区別まちづくり方針の今後の展開	

2. 全体計画のまとめ(提言)に向けた検討

2-1. 全体計画の構成案

- 全体計画のとりまとめイメージ(構成案)として以下を想定

1.全体計画の目的・位置づけ ⇒スライド P8

2.ニュータウン区域の現況

(1)上位計画・関連計画の整理

(2)現況整理

3.全体の将来都市構造となる全体計画

(1)全体計画にあたっての視点 ⇒スライド P10

(2)将来都市構造の考え方 ⇒スライド P11~16

(3)全体計画 ⇒スライドP17

一過年度検討済み

4.都市計画マスタープラン改定に向けた重点テーマの設定⇒[第二回再生推進会議にて提示](#)

2-2. 全体計画の目的・位置づけ

(1) 全体計画の検討の目的

- 平成28～29年度にかけて、第1次入居地区の諏訪・永山地区で先行して将来都市構造の検討を進めた
- 平成30年2月に「多摩ニュータウンリ・デザイン 諏訪・永山まちづくり計画」を策定



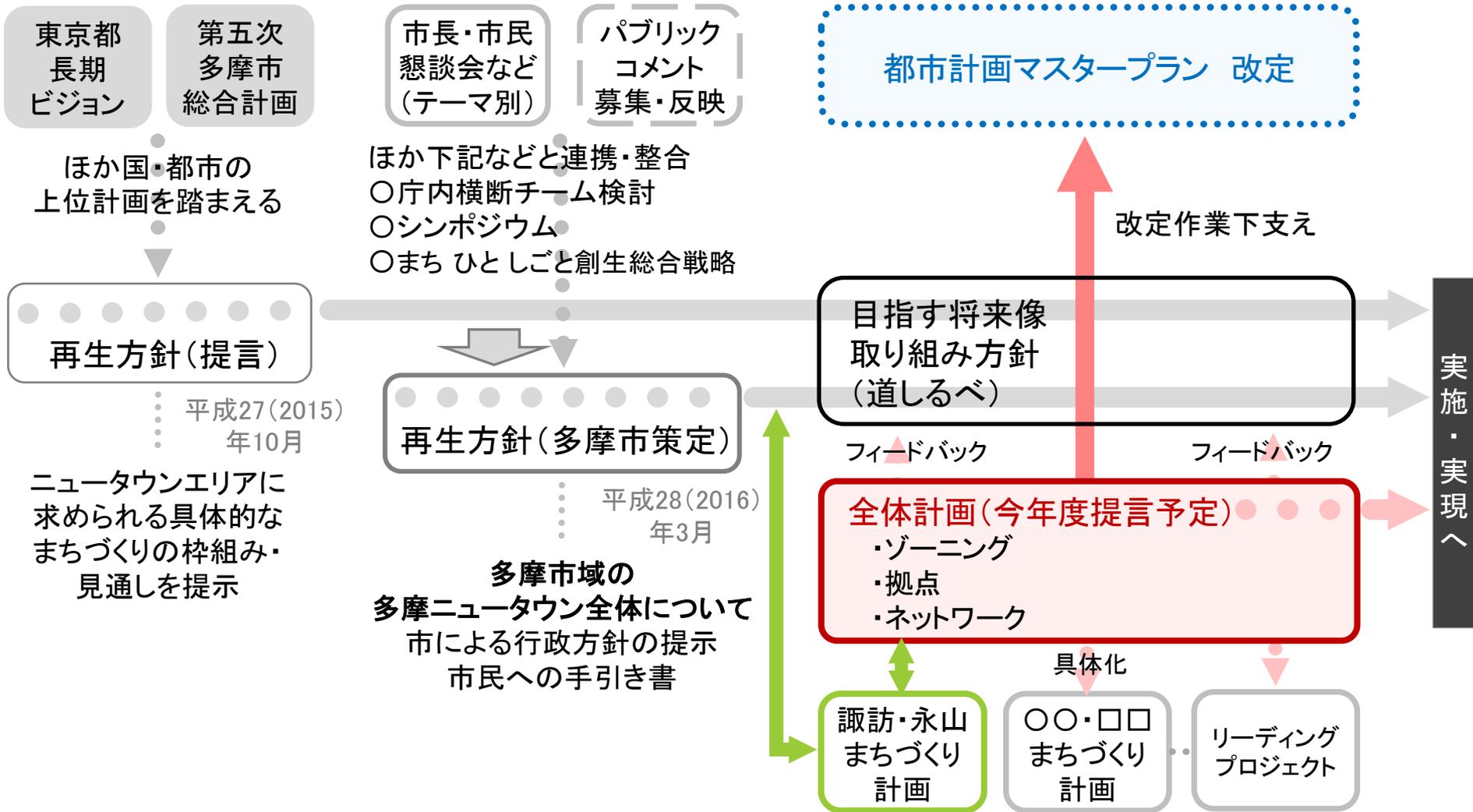
多摩市ニュータウン再生方針【全体方針】
「持続可能なまちを実現する、まち全体のあり方や方向性を共有して行動する」

- 今後、再生がニュータウン全体に及ぶことを見据え、諏訪・永山地区での検討を活かし、ニュータウン全体の全体計画イメージを検討する

※個別の将来都市構造は各地区の地区まちづくり計画にて策定するものとし、全体計画イメージにおいては主要な拠点や骨格(主に再生の核となる駅周辺・近隣センター・尾根幹線沿道など)を中心に考え方を示すことを目的とする。

2-2. 全体計画の目的・位置づけ

(2) 位置づけ



2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

(1) 全体計画にあたっての視点

- 多様な拠点の強化連携型コンパクトを目指す
- 広域交通インフラ整備の影響を考慮して計画する
- 「ゾーニング＋拠点＋ネットワーク」の考え方に基づき全体計画イメージを示す

○ゾーニング : 住区単位のまとまりを踏まえつつ、土地利用や建物の密度・高さのメリハリを形成するため、駅からの距離を踏まえて設定

○拠点 : 鉄道駅の性格付けをするとともに、学校跡地や賃貸団地の建替え創出用地などの活用を想定して計画

(※拠点の具体化に向けては各プロジェクトの中で構築を目指す)

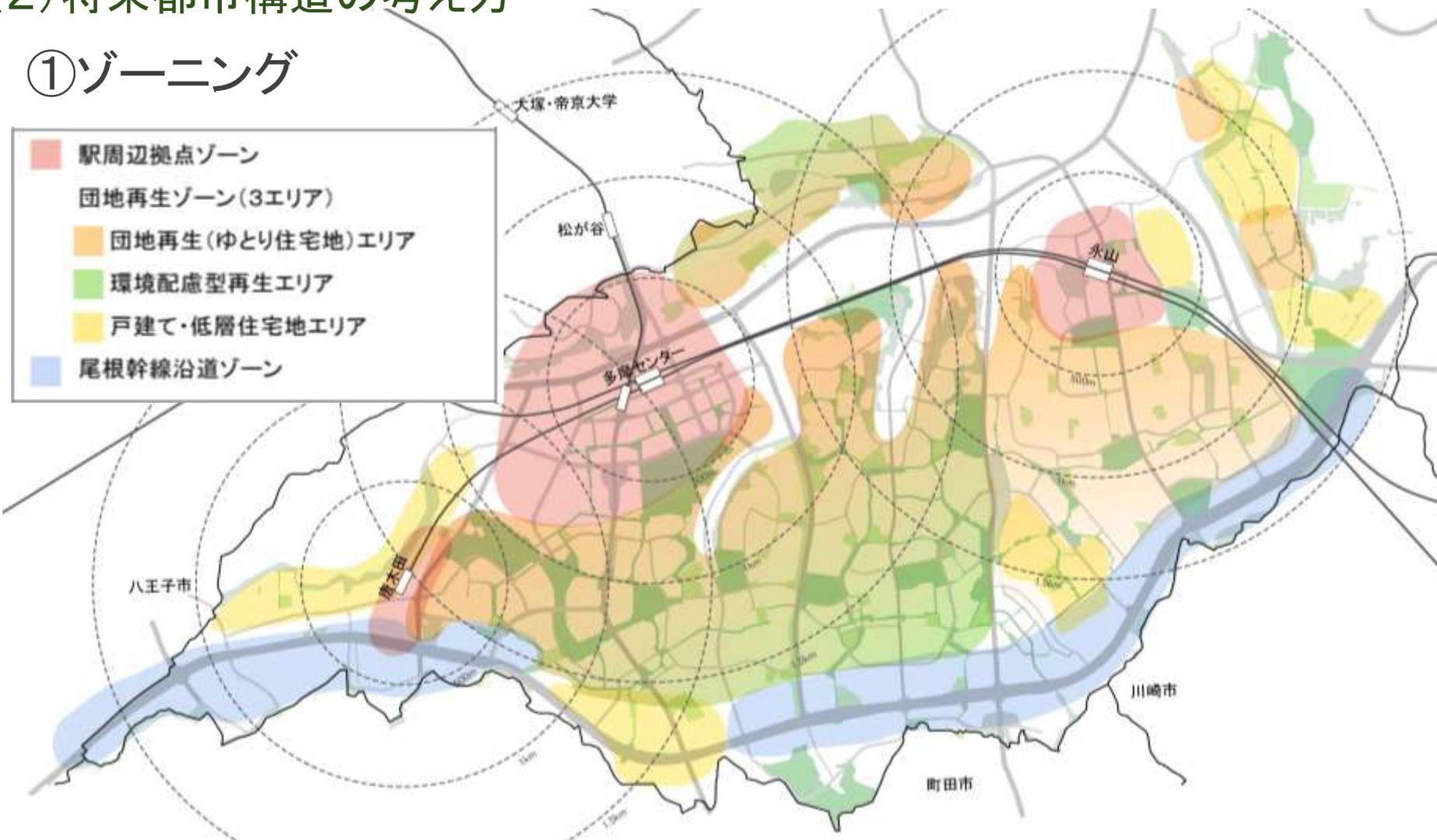
○ネットワーク : 広域交通インフラ整備を踏まえながら、既存の基盤を活かした特徴あるネットワークを検討

- 鉄道駅の性格、住区の特徴などを踏まえた計画とする

2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

(2) 将来都市構造の考え方

① ゾーニング



※想定する補完拠点及び関連する交通インフラ軸ルートについては、H28年4月の国の交通政策審議会の答申を踏まえ、多摩市が想定したものであり、確定しているものではありません。

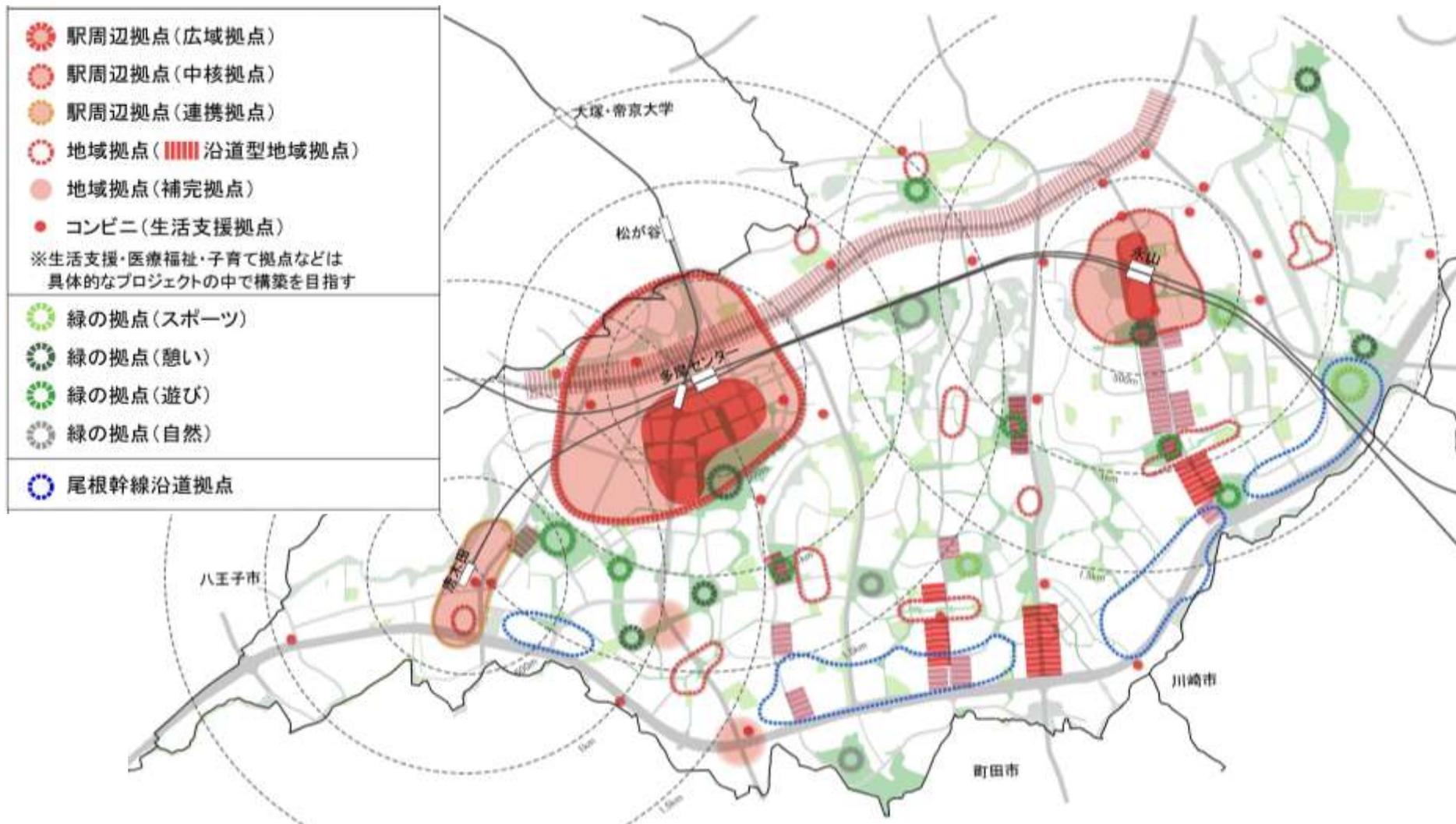
2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

ゾーニングの方向性

ゾーニング	対象	方向性
駅周辺拠点ゾーン	駅周辺	公共交通の利便性向上を活かして、商業・業務・公共公益・住機能等を含む複合的な拠点を形成する。
団地再生ゾーン	団地再生エリア 駅から概ね1km以内の賃貸・分譲団地	建替えを含む団地再生を推進する。 再生に際して子育て・高齢・交流等の団地再生拠点を整備し、周辺地域の生活サービスの向上とコミュニティ形成を図る。
	ゆとり住宅地エリア 駅から概ね1km以上の賃貸団地の建替え創出用地等(既存の戸建て・低層住宅地を含む)	団地再生に伴う創出用地は、スマートタウン等のゆとり住宅地として活用し、エリアマネジメント拠点となる集会所やコミュニティハウスなどを設ける。
	環境配慮型再生エリア 駅から概ね1km以上の賃貸・分譲団地	開発年代による住宅ストックのスペックを踏まえ省エネ性能を高める住棟・住宅の改修、豊かな自然環境を生かした屋外改修、建替え等により、付加価値が向上する団地再生を推進する。 再生とともに集会所等を活用し、主にソフトの取組みによる団地再生拠点を形成する。
尾根幹線沿道ゾーン	尾根幹線沿道の創出用地等	賃貸住宅の建替えなどで創出用地が生じた場合、交通利便性の飛躍的な向上を活かし、イノベーションや賑わいなど、新たな価値の創出につながる土地利用転換を図る。

2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

②拠点



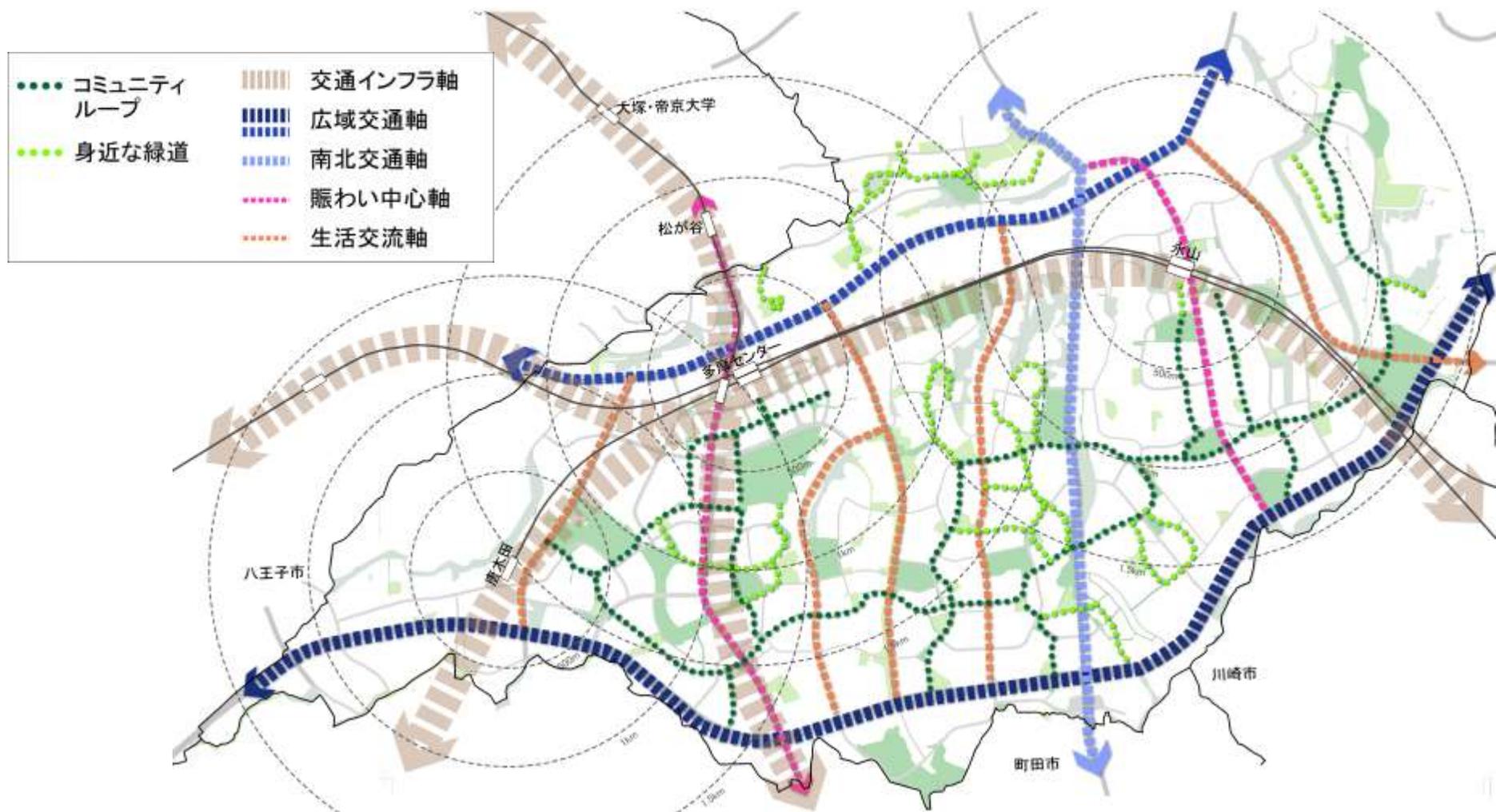
2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

拠点の方向性

拠点		対象	方向性
駅周辺拠点	広域拠点	多摩センター駅周辺	多摩ニュータウンの中心として、周辺自治体や東京都と連携し、商業、業務、文化・交流、住機能等の都市機能の集積、賑わいの創出を図る。
	中核拠点	永山駅周辺	多摩市の中心駅として、商業、公共・公益、交流、住機能等の都市機能を強化し、市民の生活利便や質の向上を図る。
	連携拠点	唐木田駅周辺	周辺住民の生活利便性の確保に向けて、商業・生活サービス等の機能の充実を図る。
地域拠点 (近隣センターの再生・拡充)	沿道型地域拠点	諏訪・永山近隣センターなど	周辺に低未利用地等がある近隣センターでは、近隣センターの再生・拡充や非現地建替えなどにより地域拠点化を図る。
	(想定)補完拠点	多摩都市モノレール沿線	沿道型地域拠点との連携を図りながら、周辺住民の生活利便性の確保に向け不足する機能を補完し、尾根幹線整備による効果を活かした拠点を形成する。
	上記以外	上記以外の近隣センター	現状の近隣センターの維持・充実により、地域拠点の役割を担う。
緑の拠点	-	-	スポーツ、憩い、遊び、自然環境など公園の特長を踏まえて、市民と協働で公民が連携した柔軟な利活用や維持保全を図る。
尾根幹線沿道拠点	尾根幹線沿道の土地利用転換が想定されるエリア	-	交通利便性の飛躍的な向上を活かし、研究や産業等のイノベーション機能や、駅周辺拠点と差別化を図った賑わい機能などの拠点的機能を導入する。

2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

③ネットワーク



※想定する補完拠点及び関連する交通インフラ軸ルートについては、H28年4月の国の交通政策審議会の答申を踏まえ、多摩市が想定したものであり、確定しているものではありません。

2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

ネットワークの方向性

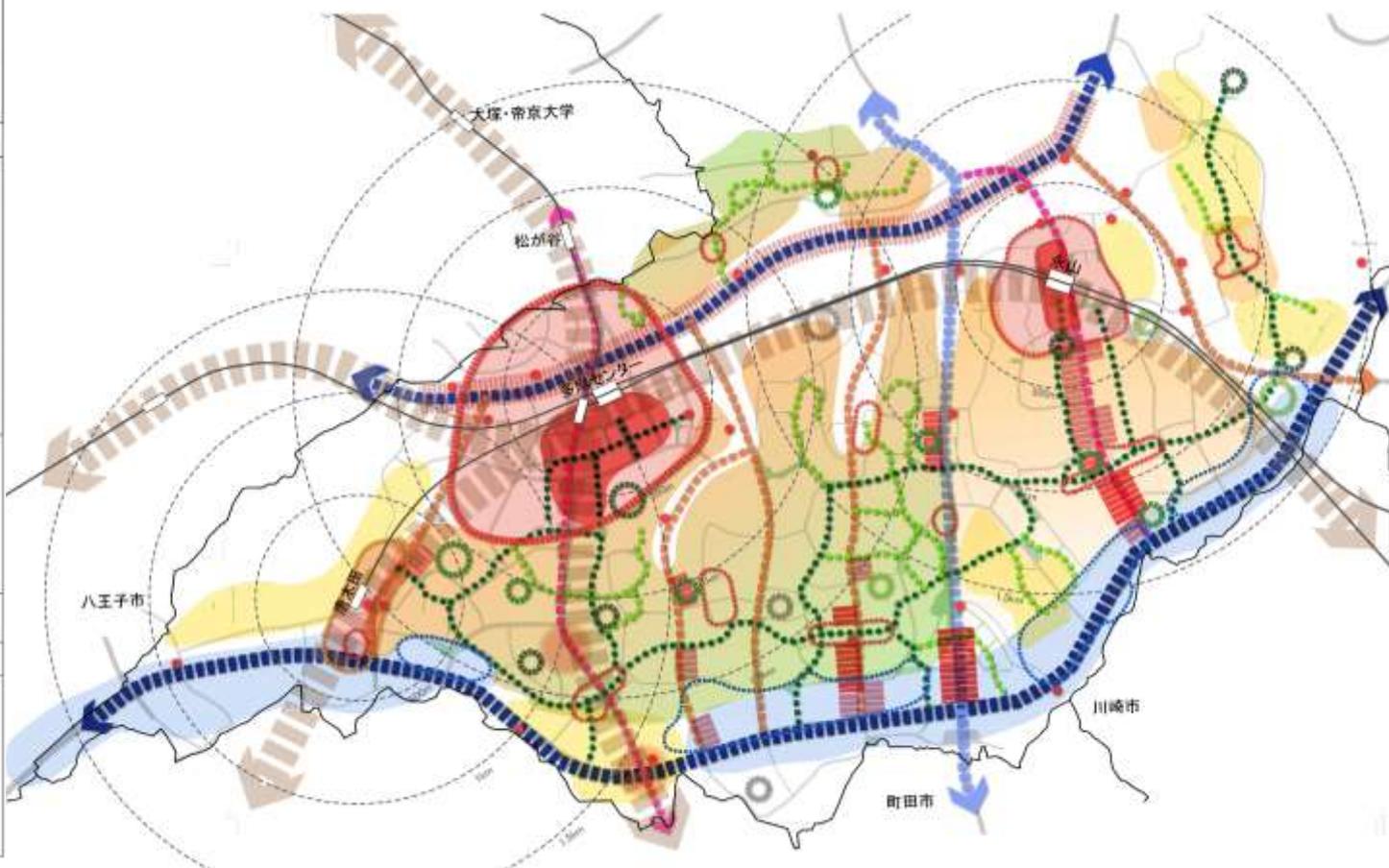
ネットワーク		対象	方向性
交通インフラ軸		鉄道、モノレール	モノレールや小田急の延伸などにより、多摩センター駅を中心とした公共交通ネットワークが強化される。
自動車交通	広域交通軸	尾根幹線道路	リニア開通による広域アクセス向上や将来的な新交通技術の発展を見据え、沿道の土地利用転換を図り、産業・研究、スポーツ、商業など特徴ある拠点を沿道に展開する。
		ニュータウン通り	沿道の小売店や飲食店など、既存の生活利便機能の維持・充実に加え、コンビニや公共・公益施設を核とした生活支援拠点を沿道に展開する。
	南北交通軸	鎌倉街道	日野市、町田市との広域交通ネットワークの軸となる。
	賑わい中心軸	鉄道駅を通る南北幹線道路	上記に加えて、駅周辺拠点から沿道の賑わいがつながる生活軸を形成する。
	生活交流軸	南北の主要な幹線道路	沿道の公的用地等を活用して、商業・生活サービス・交流等の機能導入を図る。近隣センター周辺では地域状況を勘案し、特に沿道型地域拠点の形成を進める。
歩行者動線	コミュニティループ	拠点間・住区間を結ぶ歩行者専用道路	徒歩・自転車などによる、安心安全な移動ルートを形成する。将来的には、高齢者・子育て世帯等の移動をサポートするための小型モビリティの導入等を検討する。
	身近な緑道	上記以外の歩行者専用道路、オープンスペース等	住宅からバス停や各拠点まで、徒歩や車椅子、ベビーカーなどが安心して移動できる緑豊かなネットワークを形成する。

2-3. 全体の将来都市構造となる全体計画

(3) 全体計画

■ 全体計画イメージ

ゾーニング	
	駅周辺拠点ゾーン
	団地再生ゾーン(3エリア)
	団地再生(ゆとり住宅地)エリア
	環境配慮型再生エリア
	戸建て・低層住宅地エリア
	尾根幹線沿道ゾーン
拠点	
	駅周辺拠点(広域拠点)
	駅周辺拠点(中核拠点)
	駅周辺拠点(連携拠点)
	地域拠点(沿道型地域拠点)
	地域拠点(補完拠点)
	コンビニ(生活支援拠点)
※生活支援・医療福祉・子育て拠点などは具体的なプロジェクトの中で構築を目指す	
	緑の拠点(スポーツ)
	緑の拠点(憩い)
	緑の拠点(遊び)
	緑の拠点(自然)
	尾根幹線沿道拠点
ネットワーク	
	コミュニティループ
	身近な緑道
	交通インフラ軸
	広域交通軸
	南北交通軸
	賑わい中心軸
	生活交流軸



※想定する補完拠点及び関連する交通インフラ軸ルートについては、H28年4月の国の交通政策審議会の答申を踏まえ多摩市が想定したものであり、確定しているものではありません。

3. 地区別まちづくり方針の検討

3. 地区別まちづくり方針の検討

(1) 目的、検討地区の設定

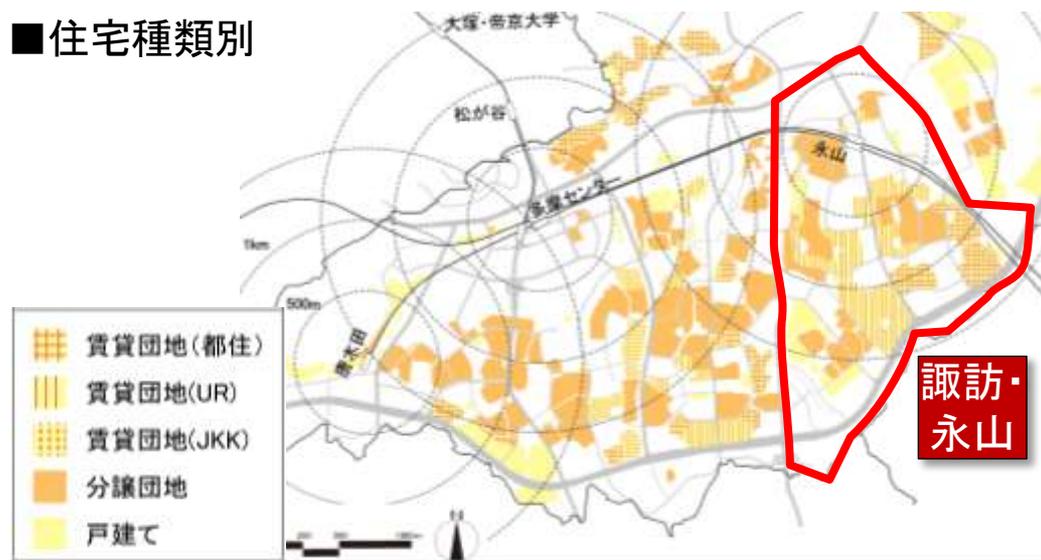
① 目的

- 全体計画に基づき、諏訪・永山地区に続く、まちづくり計画の策定を見据え、地区別まちづくり方針の検討を行う

② 検討内容

- 第二次・第三次入居エリアである愛宕地区・貝取・豊ヶ丘地区等を一体に捉えたエリアで検討
- まちづくり計画を策定済みの諏訪・永山地区のノウハウを活かし、他地区での横展開を狙う

■ 住宅種類別



■ 年代別



3. 地区別まちづくり方針の検討

(2) 愛宕・貝取・豊ヶ丘地区の現況整理

【概要】

- 多摩センター駅と永山駅の間に位置
- 入居時期は、第二次・第三次入居が中心
- 愛宕地区及び尾根幹線沿いを中心に公的賃貸、全体に分譲団地が立地

【ポイント】

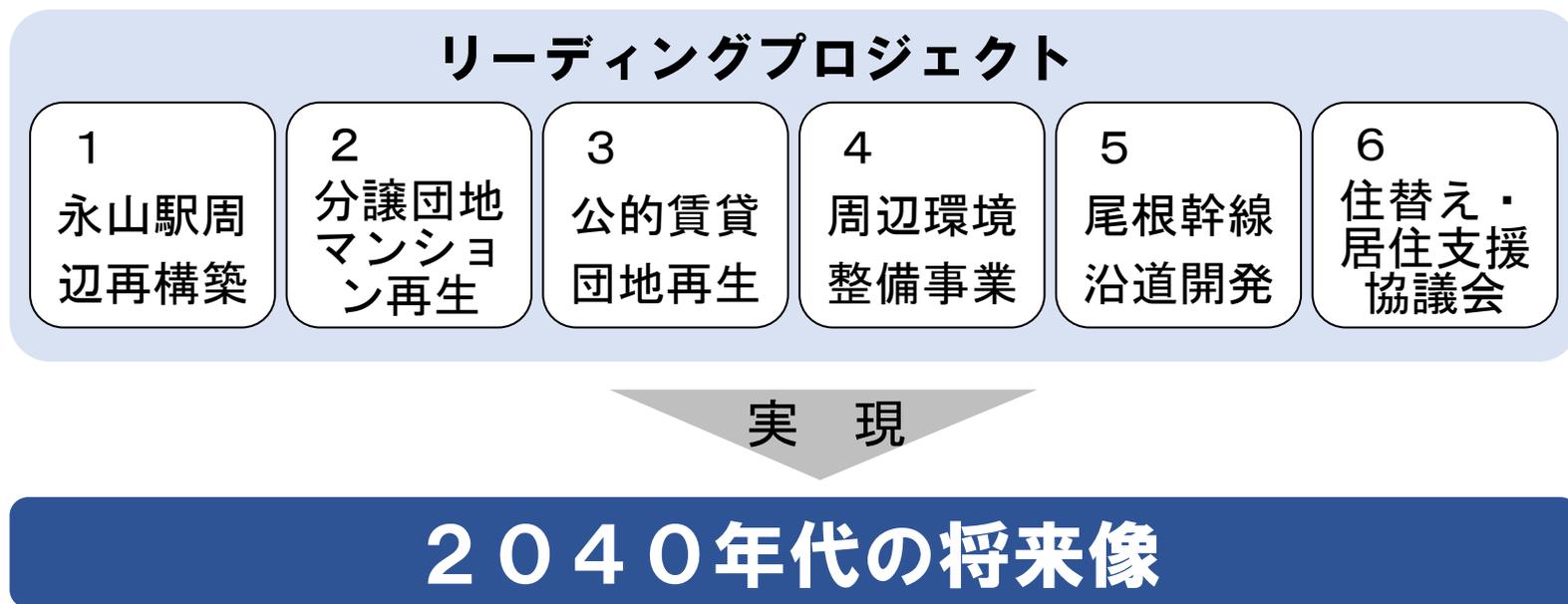
- 旧耐震基準の団地が多く立地、愛宕地区の都営住宅では建替え事業が進行中
- 広域交通軸であるニュータウン大通り沿いを南北の住宅地域の生活を支える沿道型地域拠点に位置付け
- 尾根幹線沿いの将来像
- 愛宕地区との南北ネットワークが課題



4. リーディングプロジェクトについて

4-1. リーディングプロジェクトとは

- 2040年代の将来像の実現に向けた取り組みとして6つのリーディングプロジェクトを示す
- リーディングプロジェクトにおいては、計画の具体化・事業化に向けて関係主体と連携のもと取り組む

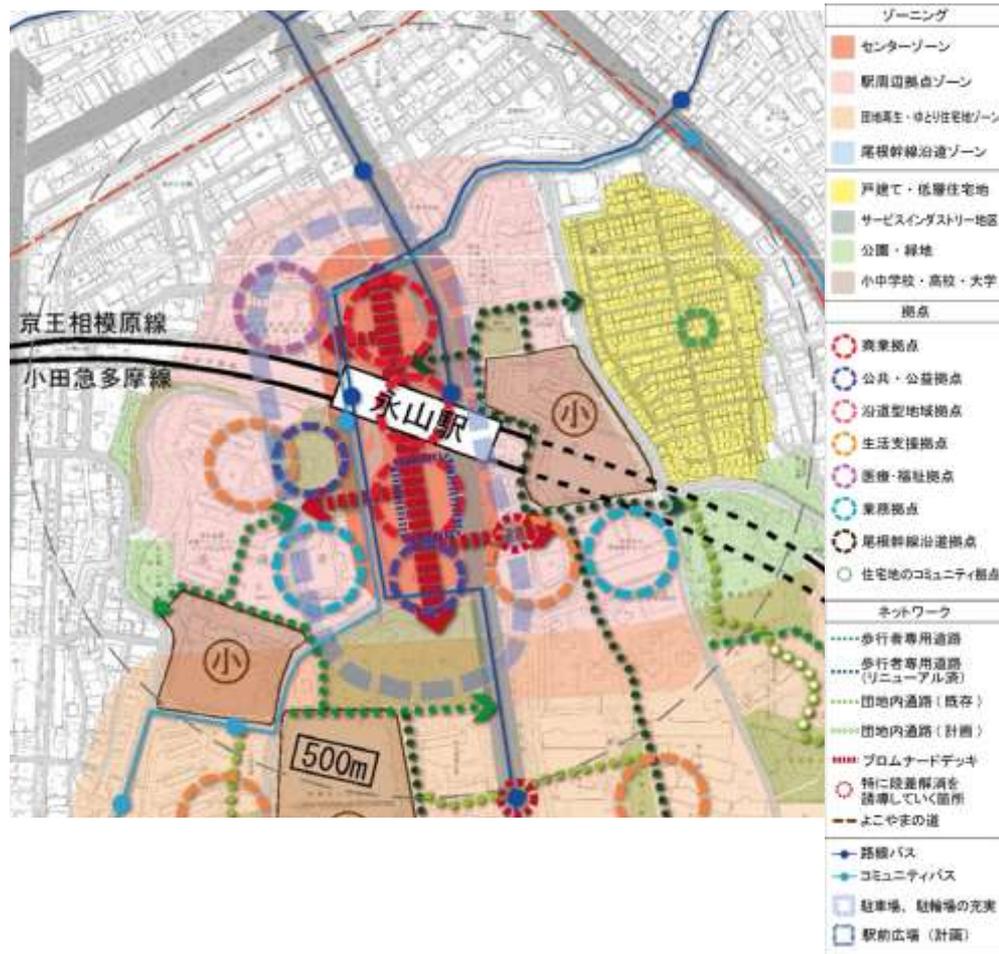


4-2. 永山駅周辺再構築プロジェクト

■ 永山駅周辺再構築

- 平成30年度は「市民と共に描く永山駅周辺再構築ビジョンワークショップ」にて、「永山駅周辺再構築ビジョン」をとりまとめた
- 平成31年3月8日に永山駅周辺拠点勉強会を開催し、上記ビジョンについて報告。今年度は同勉強会を複数回開催予定
- 今年度は「永山駅周辺再構築手法検討調査委託」を実施していく。現況や基本方針、街区ごとの整備手法等を調査し、まちづくりをイメージするための基礎資料とする

■ 検討調査の対象区域



4-3. 分譲団地マンション再生プロジェクト

■ 分譲団地マンション再生

- 平成30年4月より「多摩市マンション再生合意形成支援事業補助金」を新設した。

＜分譲団地再生の段階的な取り組みイメージ＞

支援メニューの構築(平成30年4月～)

団地管理組合へ周知・啓発

管理組合ごと

検討段階における懇談会の実施及び対象団地へのDM

合意形成

事業計画の策定

事業化

目指すイメージ



- ・平成30年度は市内分譲マンションの管理組合から1件申請あり、現状把握、耐震診断の実施方向性についての調査検討を行ったことに対して助成を行った。

4-4. 公的賃貸団地再生プロジェクト

■ 公的賃貸団地再生①

都営住宅

- 諏訪団地及び和田・東寺方・愛宕団地の建替えに向けて、事業を実施中
 - ・旧西永山中学校跡地(多摩ニュータウン永山三丁目団地)は本年秋に入居予定
 - ・中沢一丁目都有地及び旧中諏訪小学校グラウンド跡地において建設工事实施中
 - ・旧西愛宕小学校跡地においては平成31年2月から今年度にかけて順次契約・着工予定



再生イメージ

JKK

- 子育て・高齢者世帯等への入居支援を展開
 - ・子育て・高齢者世帯等を対象に優先的に入居申込みを受付け
 - ・親族との近居を希望する世帯を対象に優先的に住戸を紹介(登録制)
 - ・ひとり親世帯を対象に月収基準の緩和及び一部団地で一定期間の家賃を割引
 - ・新婚・夫婦世帯を対象に一部団地で一定期間の家賃を割引(H31.4~)

4-4. 公的賃貸団地再生プロジェクト

■ 公的賃貸団地再生②

UR

- 平成30年12月19日に「UR賃貸住宅ストック活用・再生ビジョン」が策定・公表
 - ・3つの団地別の類型が示され、このうち管理開始から40年以上が経過した団地を対象とする「ストック再生」には市内NT区域では4団地が該当
今後、多摩市、地域関係者と連携し居住者のご意見等をうかがいながら再生を進めていく予定
- 空き施設を活用した「(仮称)健幸ステーション」の事業者公募
 - ・URは「多様な世代が生き生きと暮らし続けられる住まい・まち(ミクストコミュニティ)」の実現を目指し、地域医療福祉拠点化を推進している。
 - ・この一環として、多摩ニュータウン豊ヶ丘団地の空き施設に、地域の交流や憩いの場として、コミュニティ拠点施設(コミュニティ活動施設+高齢者支援施設)となる(仮称)健幸ステーションの年度内オープンを目指す。

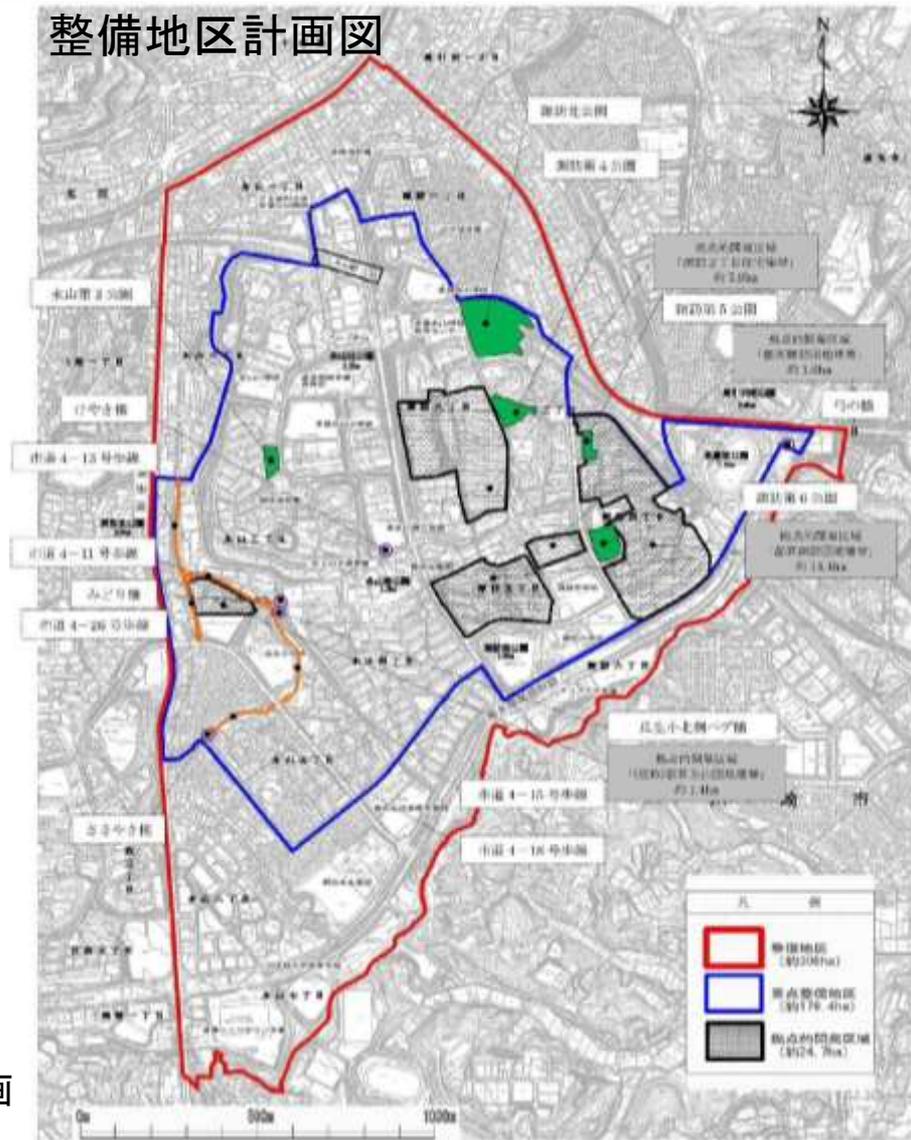
4-5. 周辺環境整備事業

■ 周辺環境整備事業

- 住宅団地の建替え等に合わせ、公共施設や遊歩道等の改修、バリアフリー化を進め、快適で安全・安心な居住環境を創出する

- ・ 都営諏訪団地建替えに合わせ、第2期整備計画を平成30年12月に策定
- ・ 今年度は測量や原案作成を順次実施する予定

資料：第2期多摩ニュータウン諏訪・永山地区整備計画
〔住宅市街地総合整備事業〕



4-6. 尾根幹線沿道開発プロジェクト

■ 尾根幹線沿道開発

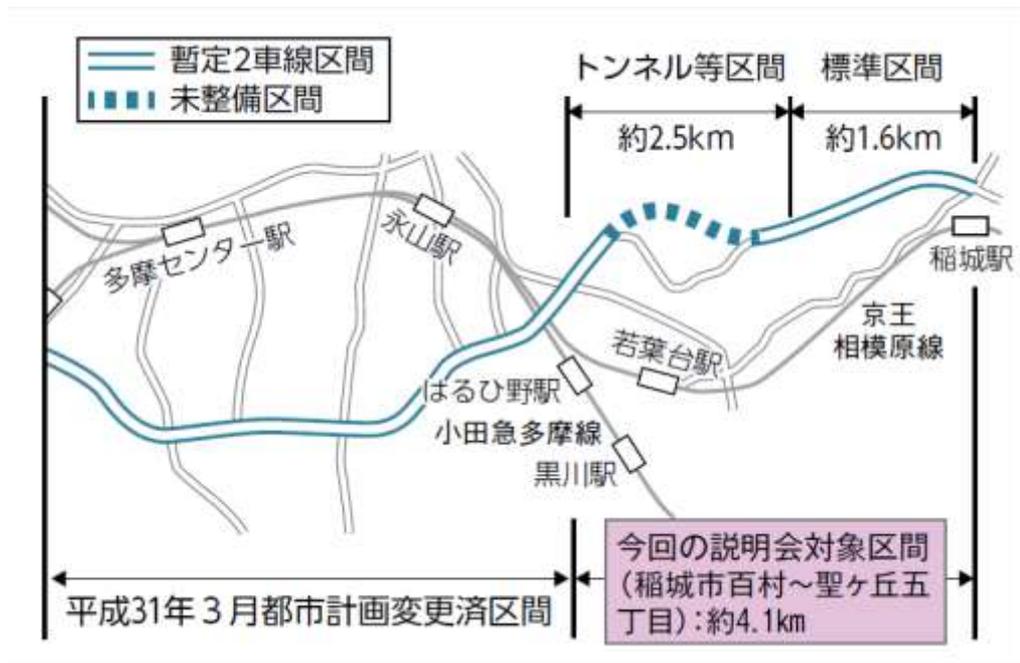
- 沿道の賑わいと地元雇用を創出する土地利用転換を誘導

- ・唐木田区間においては車道の4車線化が完了今年度は同区間の歩道・電線共同溝の工事を実施

- ・聖ヶ丘5丁目～南野3丁目区間では、東京都において3月に都市計画変更が決定

- ・稲城市百村～多摩市聖ヶ丘五丁目間では、8月に「都市計画変更素案および特例環境配慮書」の説明会を実施

- ・沿道の土地利用に向けて、再生方針及び諏訪・永山まちづくり計画を踏まえ、検討を進めていく



4-7. 住替え・居住支援協議会

■ 住替え・居住支援協議会

- 住宅セーフティネットに関する取り組み及び円滑な住替えの促進を図る

居住支援

- ・相談会の実施(相談事業)
- ・セミナー開催、パンフ作成
(普及啓発事業)
- ・入居・生活支援の取り組み検討

住替え支援

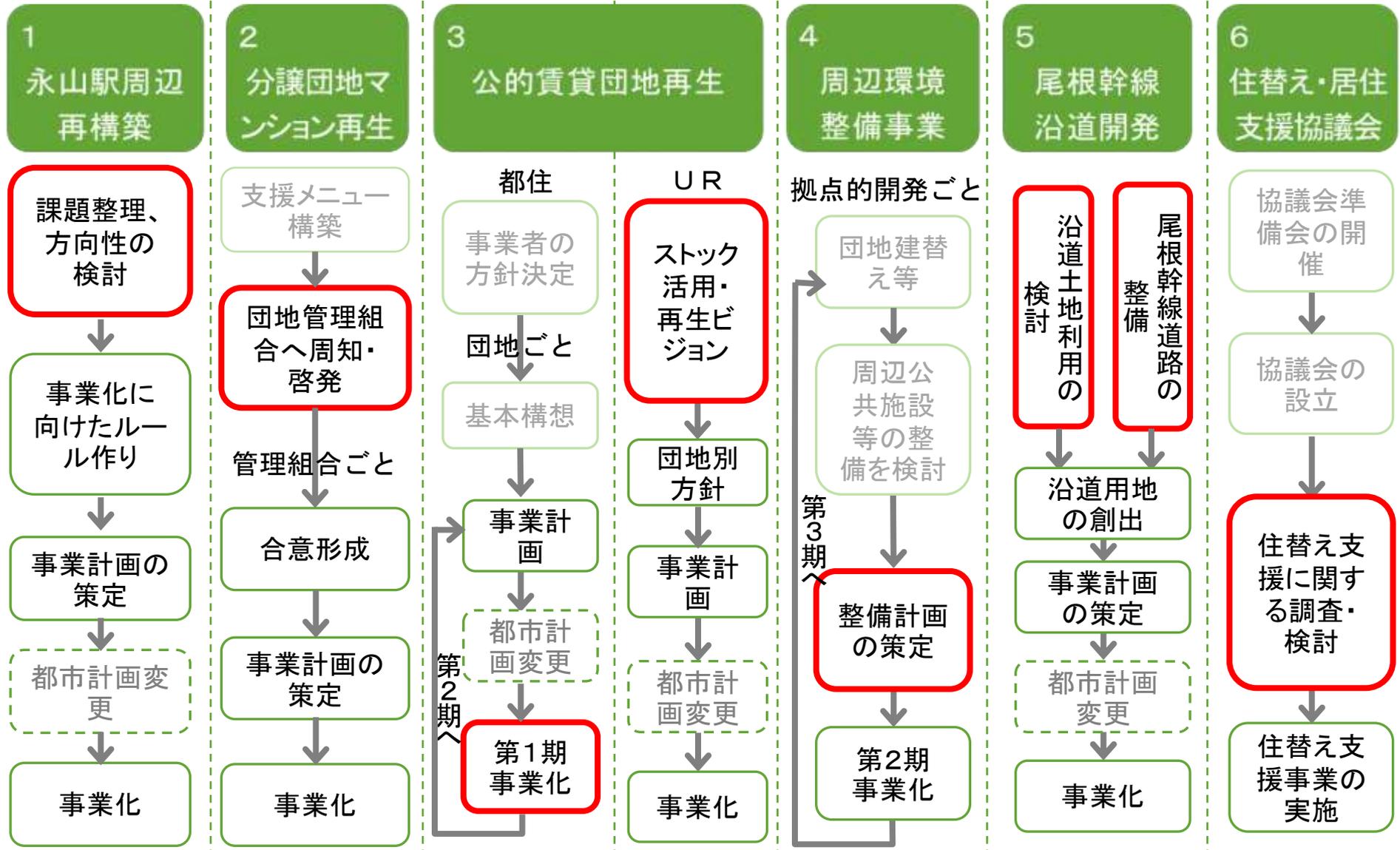
- ・子育て世帯へ居住環境・住替え意向に関するニーズ調査
- ・住替えを検討している若年世帯を主な対象にリフォーム・リノベーション講座の実施



※令和3年度以降の協議会のあり方に関し、検討中

4-8. リーディングプロジェクトの進捗状況

 : 現在の状況



4-9. ソフト施策について

● 今年度の取組み状況

目的	取組み・事業名	実施年度					連携
		H27	H28	H29	H30	R1	
定住促進	多摩ニュータウンの魅力実感ツアー	▶					京王・UR
	多摩大学生寮プロジェクト	▶					多摩大学・UR
	移動販売の拡充を通じた生活支援とコミュニティの醸成(京王)	▶					京王・東京都
魅力発信	多摩ニュータウンの魅力発信サイト	▶					
	たまNEWプロジェクト						
	多摩ニュータウン魅力実感イベント ▶空き店舗を活用した コワーキングスペース ▶住環境見学ツアー			▶ ● ●			京王・UR
	多摩ニュータウンの魅力発信ポスター駅 掲出				▶		
	多摩ニュータウン南側プロジェクト		▶				首都大、京王、多摩信、 JS、UR、ヤマト、多摩市
	寄付(ふるさと納税)の返礼品を通じた 来街促進	▶					サンリオ、日アニ、 ヴェルディ、京王
	多摩市若者会議 ▶Googleストリートビュー			▶ ●			拡大中

4-9. ソフト施策について

● たまNEWプロジェクト(京王・UR・多摩市連携)

多摩ニュータウンの魅力発信、地域の活性化、継続的な発展を目的として、3者の保有する資源や情報等を活用した3者連携の取組

①多摩ニュータウンに住もう！住環境見学ツアー&個別相談会 平成31年3月2日開催

- ・多摩市内の企業にお勤めで、市外在住の方向けに、多摩ニュータウンの住環境や子育て環境の魅力を案内するツアーを実施
- ・学校や学童クラブ、公園、団地リノベーション事例の見学を行い、ツアー終了後には子育てや不動産の専門家による相談会を実施。



参加者の様子

<参加者の声>

多摩ニュータウン・多摩市の良かったところ、気に入ったところがありましたか？

- ・思っていたより雰囲気明るかった
- ・遊歩道が長く安全なところ。街並みがきれいなところ。
- ・団地はまだまだ住めるということ
- ・休日、外で活動されている人が多いことにビックリしました。

4-9. ソフト施策について

- たまNEWプロジェクト(京王・UR・多摩市連携)

- ②団地の空き店舗を活用したコワーキングスペース

令和元年8月20日から22日開催

- ・普段シャッターの閉まった団地商店街の店舗を開けてみる試み
- ・テレワークデイズ期間に、イス、テーブル、Wi-Fi、蓄電池を用いた電源を完備したコワーキングスペースを設置。公園を眺めながらいつもと違う仕事環境を提供
- ・団地商店街への地域のニーズや期待を調査します



4-9. ソフト施策について

● たまNEWプロジェクト(京王・UR・多摩市連携)

③多摩ニュータウンの魅力実感イベント

令和元年11月9日開催予定

- ・5回目となる今年度は、公園や遊歩道の使い方、可能性を探る取り組みを検討します。
次世代モビリティ体験や公園の新たな使い方にチャレンジします。



魅力実感イベントチラシ(昨年度のもの)

● 多摩市若者会議【Google ストリートビュー】

- ・多摩市若者会議より提案
市内約41kmの遊歩道と公園をGoogleのTrekkerカメラで実際に歩きながら撮影することを予定
- ・多摩市広報部員とも連携し、NTの魅力を発信する
- ・1月ころに撮影された画像は公開予定
データ公開後、その画像を用いた情報発信を実施予定



レンタルする機材イメージ

5. シンポジウムについて

5-1. 平成30年度シンポジウムの概要

- 市のニュータウン再生に係る取り組みの報告、有識者からの基調講演及び座談会の3部構成で実施

日時 平成31年2月4日(月)

場所 パルテノン多摩小ホール

来場者 約230名



【第1部】報告

「多摩市ニュータウン再生推進会議からの報告」

西浦 定継 氏 (多摩市ニュータウン再生推進会議 職務代理人、
明星大学 理工学部 総合理工学科教授)

「永山駅周辺再構築ビジョンについて」

楊 光耀 氏 (多摩市ニュータウン再生推進会議 市民委員)

【第2部】基調講演

「市民目線での魅力づくり・ブランディングについて」

藤村 龍至 氏 (東京藝術大学美術学部建築科准教授、RFA主宰)

【第3部】座談会

「市民と共に描く多摩ニュータウンの未来」

上野 淳 氏 (多摩市ニュータウン再生推進会議 委員長、
首都大学東京 学長)

藤村 龍至 氏 (前出)

松本 真澄 氏 (多摩市ニュータウン再生推進会議 委員、
首都大学東京 助教)

小野澤 裕子 氏 (多摩市ニュータウン再生推進会議 市民委員)

加藤 岳洋 氏 (多摩市ニュータウン再生推進会議 市民委員)

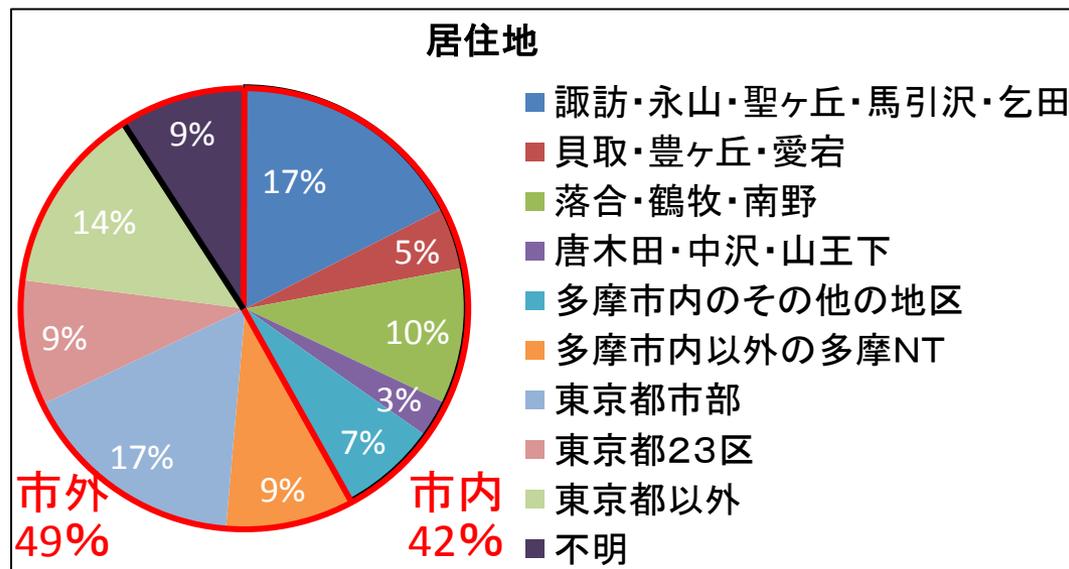
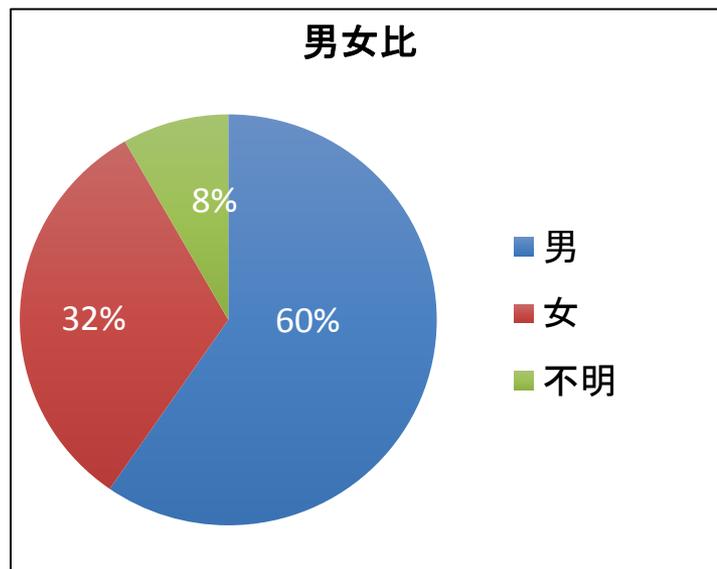
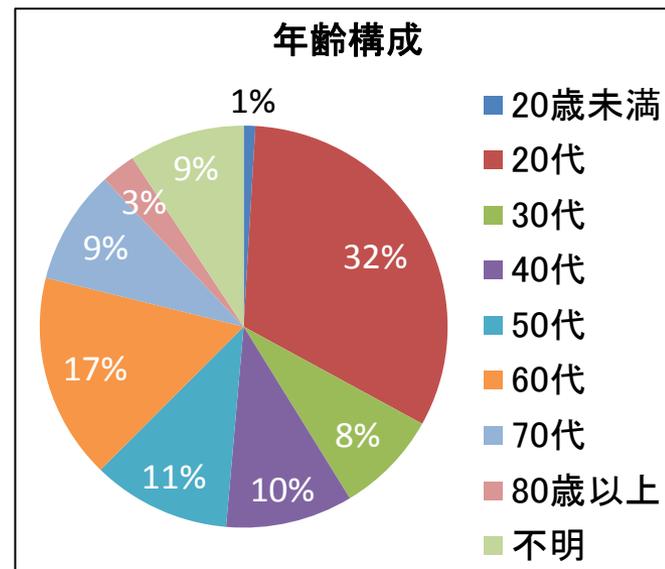
楊 光耀 氏 (前出)

阿部 裕行 (多摩市長)

5-2. 平成30年度シンポジウムのアンケート結果

(1) シンポジウムに対するアンケート

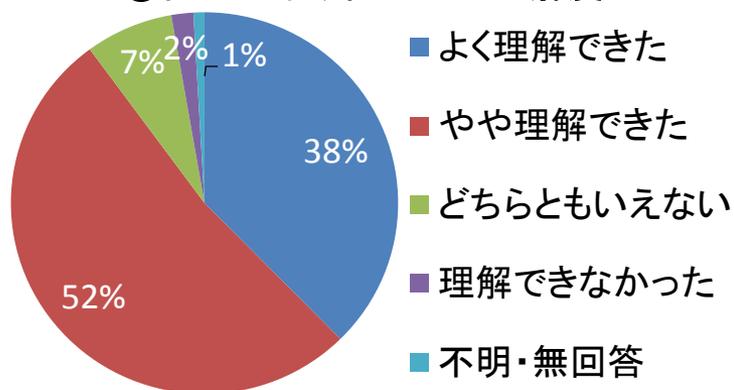
- 第6回シンポジウムにおいて、シンポジウムの講演テーマへの感想や内容理解の状況について、アンケートを実施した。
- 回収数は、109票であった。



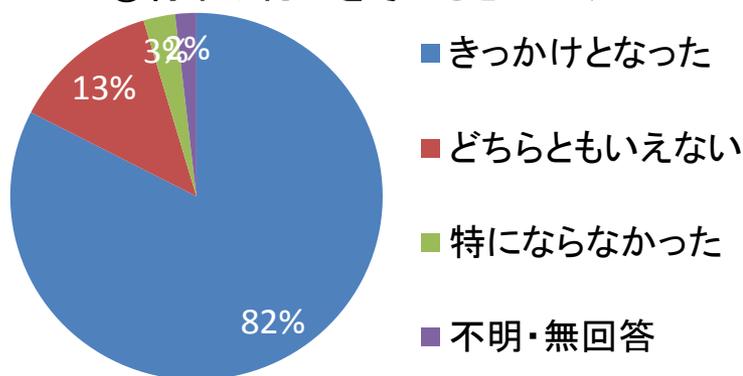
5-2. 平成30年度シンポジウムのアンケート結果

- 多摩ニュータウン再生の取り組みについての理解度は9割と高い
- また、再生を考えるきっかけも8割と高い
- 再生に向けては、偏りは少なく、様々なテーマが大切であるという傾向

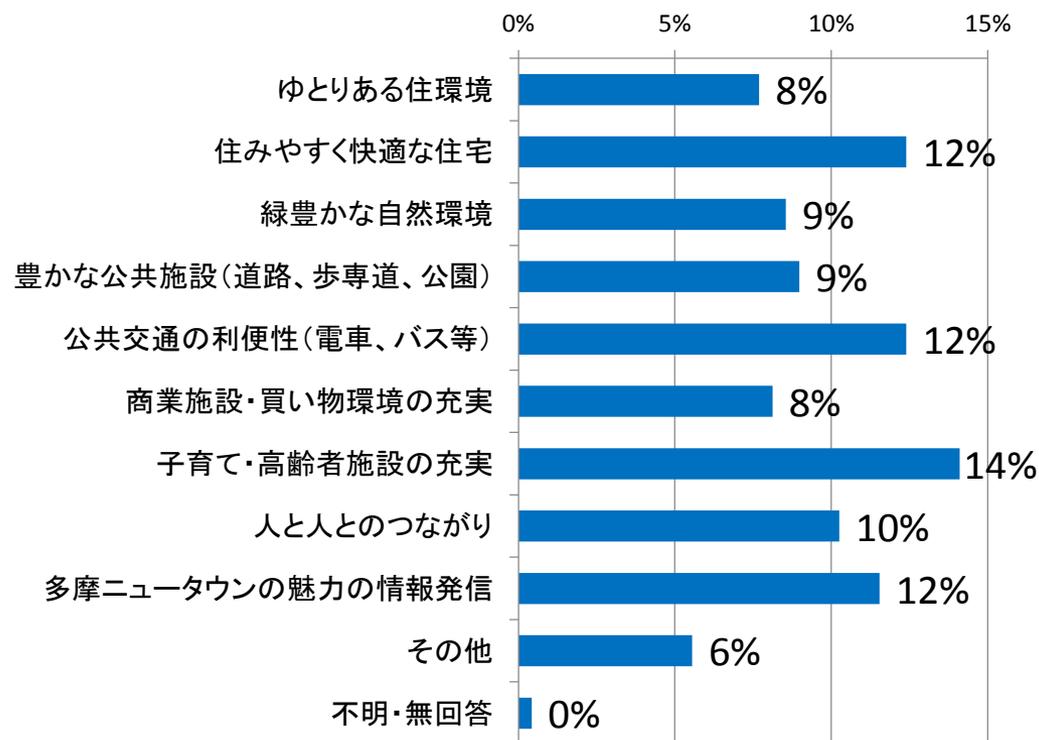
①再生の取り組みへの理解度



②将来や再生を考えるきっかけ



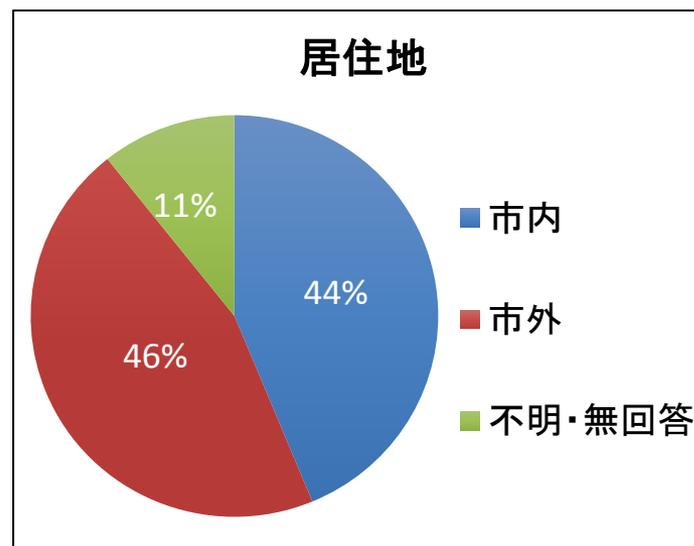
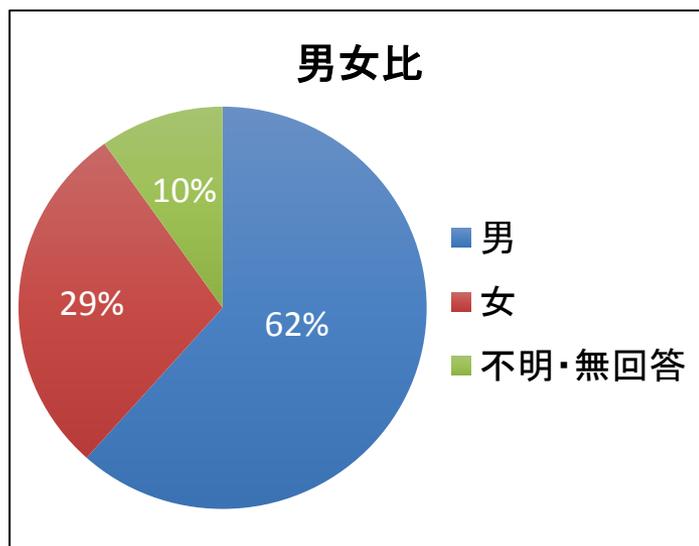
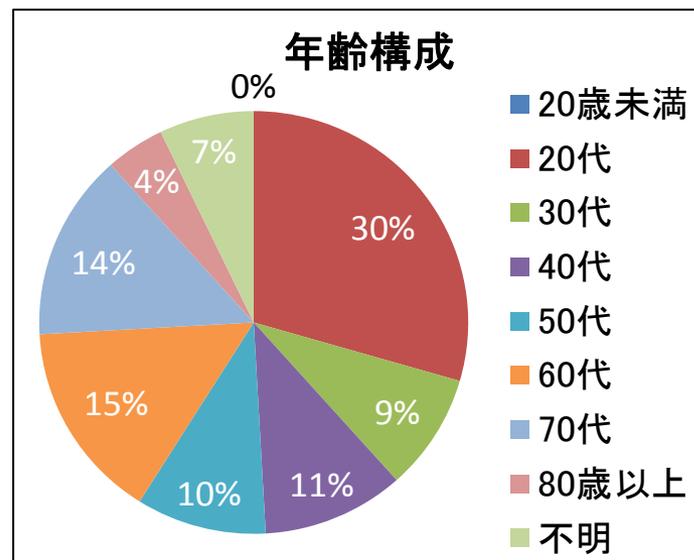
③再生に向けて大切に思うこと



5-2. 平成30年度シンポジウムのアンケート結果

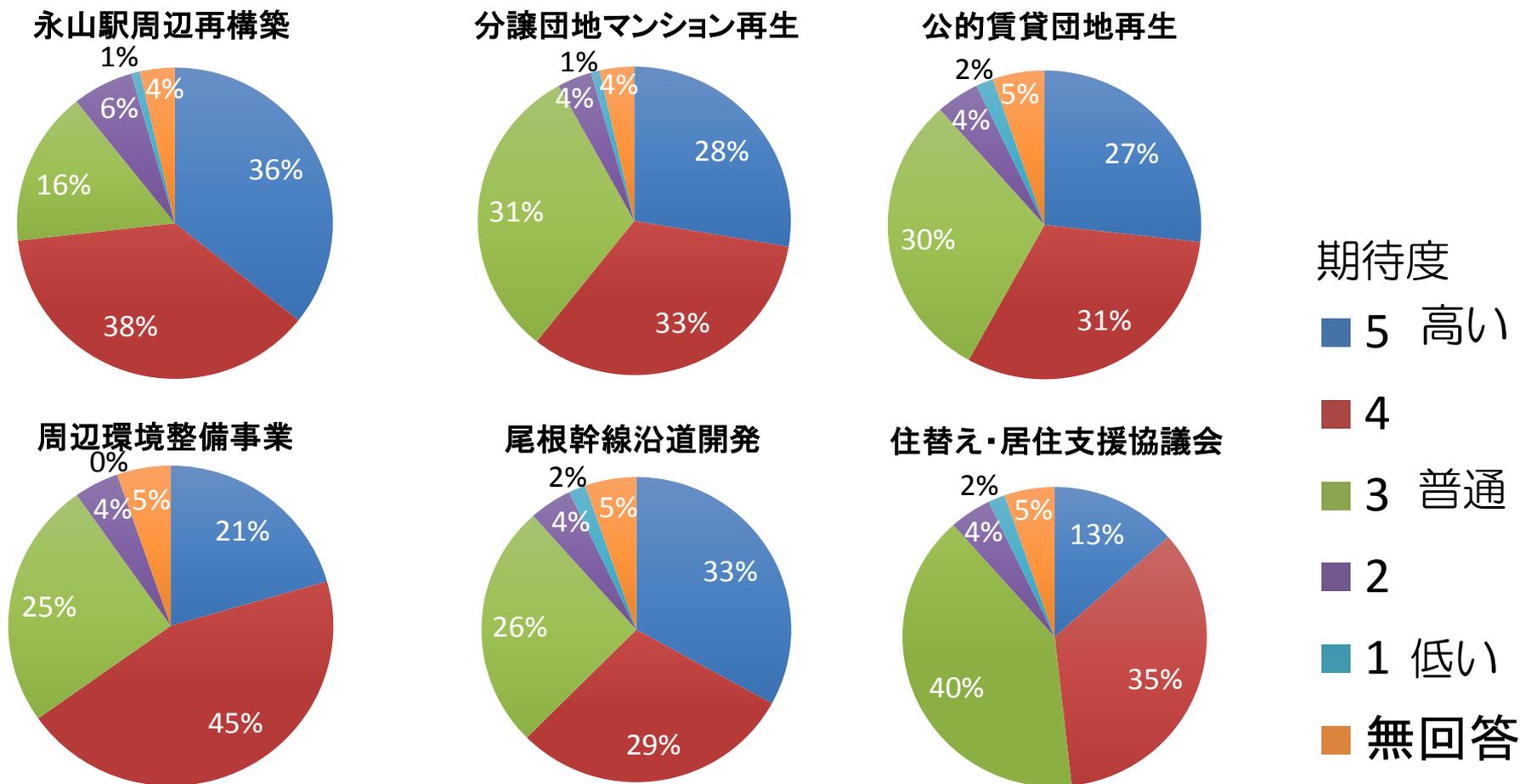
(2) プロジェクトへの期待度アンケート

- 第6回シンポジウムにおいて、各プロジェクトへの期待度について、アンケートを実施した。
- 回収数は、112票であった。



5-2. 平成30年度シンポジウムのアンケート結果

- ほとんどのプロジェクトで、半数以上が期待度を「やや高い」「高い」と回答
- 永山駅周辺再構築の期待度が特に高い



5-3. 令和元年度シンポジウムの開催概要(案)

- 都市計画マスタープラン改定に向けた全体計画(案)の報告をメインとし、多摩ニュータウンの魅力を高めるプレイスメイキングの可能性について、会場との意見交換等を行う
- 基調講演は、市民目線でのプレイスメイキング等に関する有識者を検討

主な目的	<ul style="list-style-type: none">● 都市計画マスタープラン改定に向けた全体計画(案)の内容を市民と共有し、多摩ニュータウンの魅力を高めるプレイスメイキングの可能性について、意見交換
テーマ	多摩ニュータウンの魅力を高めるプレイスメイキング(仮)
日時	令和2年2月11日(火)13:30~16:30
場所	パルテノン多摩 小ホール
周知・意見収集	<ul style="list-style-type: none">● ホームページ、広報への案内掲載、関係機関等へのポスター・チラシ等の貼付・配布による幅広い周知● 休憩時間の意見カード、PDCAに係る市民評価アンケート調査等による意見収集

5-4. 令和元年度シンポジウム(案)

プログラム		内容(案)
開会挨拶		
第1部	再生推進会議からの報告 (30分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープラン改定に向けた全体計画(案)の報告(20分程度) ・リーディングプロジェクトの報告(10分程度)
休憩	会場から意見カード収集①	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの意見を収集し、座談会で活用
第2部	基調講演 (50分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・講演者検討中 ※プレイスメイキングに関する有識者を予定
休憩	会場から意見カード収集②	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者からの意見を収集し、座談会で活用
第3部	座談会 (1時間20分程度)	<ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター ・パネラー
閉会挨拶		